



## 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館

夏に開催した「生誕140年 吉田博展」では7万人に迫る来館者からご好評いただいたのをはじめ、中秋の名月にあわせた夜間特別延長デーやクリスマス・コンサートなどを新たに実施し、前年度を大きく上回る皆さまにご来館いただきました。展覧会や教育普及事業など、2017年度に実施した活動をご報告します。

## 生誕120年 東郷青児展 抒情と美のひみつ

当館コレクションの中心を占める洋画家・東郷青児(1897-1978)の生誕120年を記念して、重要な作品を各地から集めた回顧展を20年ぶりに開催しました。生涯のモチーフである女性像に注目し、初期の前衛時代から1950年代にかけて、いわゆる「東郷様式」が確立するプロセスを検証。なかでも1930年代のデザインや壁画などを、ジャンルの区別を設けずに油彩画群と併せて時系列に見せることによって、モダニスト達や藤田嗣治との交流を通じて近代女性

の理知的かつ妖艶な美を作りあげていった経緯を明らかにしました。本展は他に、ふくやま美術館、久留米市美術館、あべのハルカス美術館で開催されました。

【展覧会データ】  
展覧会名 | 生誕120年 東郷青児展 抒情と美のひみつ  
会期 | 2017年9月16日(土)～11月12日(日)  
主催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 産経新聞社、テレビ朝日  
協賛 | 損保ジャパン日本興亜、みずほ銀行  
後援 | 公益社団法人二科会、新宿区教育委員会



《バイオレット》1952年 油彩、キャンヴァス 108.4×80cm 損保ジャパン日本興亜

## 新作グッズ

ゴッホ《ひまわり》、セザンヌ《りんごとナブキン》、東郷青児作品をマスクングテープにしました。《ひまわり》は部分をアップで使用し迫力の仕上がりに! 《りんごとナブキン》からはりんごをひとつずつ取り出しました。ころころとかわいらしく並んでいます。東郷青児は16作品のさまざまな雰囲気を楽しめます。



マスクングテープ 3種 大600円 小550円



ミラー 4種 各980円

ミラーはゴッホ《ひまわり》、セザンヌ《りんごとナブキン》、東郷青児《望郷》《蝶》の4種類。カードサイズでケース付き、携帯に便利です。持ち手部分が丸く飛び出したデザインで出し入れも簡単。

東郷青児の作品から人気の絵柄10作品を使った当館オリジナルの切手シート。62円と82円が各5枚。

切手シート 1600円



## クインテットIV—五つ星の作家たち

青木恵美子は《Epiphany》《Presence》《Infinity》という3シリーズを展開していますが、FACE2017でグランプリを受賞した最新の花弁作品は、イメージとオブジェとの境界をレリーフ作品として追求しています。竹中美幸は一貫して「透明性」に拘り、アクリル板、樹脂、フィルムを使用することで、光の反射、陰影を取り込んだ繊細で新鮮な作品に仕上がっています。モノクロームの墨のみで描く田中みぎわは、モチーフを求めた現場取材で描く木炭スケッチから、アトリエで雲肌麻紙に「たらし込み」技法で、壮大な大自然を再現させることに挑戦しています。室井公美子は、抽象画を追究し画面を構築していますが、近年はギリシャ神話や聖書など人間の根源的なテーマを求め、抽象概念と内面世界を画面に

表現しようと取り組んでいます。一方、日本画出身の船井美佐は、現代の表現方法が二次元から三次元へと越境していく表現方法の状況に呼応するかのようによりインсталレーションに挑んでいます。人間の生と死など人間の存在の意味、楽園イメージなどを立体作品で表現しています。具象と抽象の狭間の深い闇の中で光を求めて彷徨い続けているのが現代作家たちであり、私たち自身でもあります。我々と同時代の出品作品を見ることは「時代精神」に立ち会うことにほかなりません。

【展覧会データ】  
展覧会名 | クインテットIV—五つ星の作家たち  
会期 | 2018年1月13日(土)～2月18日(日)  
主催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 朝日新聞社  
協賛 | 損保ジャパン日本興亜



室井公美子《Anima》 2016年 油彩・キャンヴァス、227×227cm

「クインテット」(五重奏)と題し、将来有望な中堅作家たちを紹介する自主企画第4弾。「具象と抽象の狭間」を共通テーマに、青木恵美子、竹中美幸、田中みぎわ、船井美佐、室井公美子の近作・新作83点で現代絵画の在り処を探ります。

## FACE2018 損保ジャパン日本興亜美術賞 グランプリ 仙石裕美 Hiromi Sengoku

《それが来るたびに跳ぶ 降り立つ地面は跳ぶ前のそれとは異なっている》



1982年生まれ 埼玉県在住  
2004年 武蔵野美術大学油絵学科卒業 卒業制作・研究室賞  
2008年 Ecole nationale supérieure des beaux-arts, Post-diplôme修了 個展(NICHE Gallery・東京)(2009、2011～2014、2016～)  
2010年 シェル美術賞展2010 入選(2011、2014年本江邦夫審査員奨励賞)  
2011年 「International Exhibition of Contemporary Art」(河南省美術館・鄭州)  
2014年 上野の森美術館大賞展 入選(2015年賞候補)



《それが来るたびに跳ぶ 降り立つ地面は跳ぶ前のそれとは異なっている》 2017年 アクリル・油彩・キャンヴァス、194×162cm

【展覧会データ】  
展覧会名 | FACE展2018 損保ジャパン日本興亜美術賞展  
会期 | 2018年2月24日(土)～3月30日(金)  
主催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 読売新聞社  
協賛 | 損保ジャパン日本興亜

6回目となるFACE2018は、前年比7.5%増の多彩な作品が数多く出品されました。五次に及ぶ入選審査では、個人情報(作者名、作品名、年齢、性別、所属など)を伏せた作品本位の審査が行われました。数度にわたり作品を見ることで作品の特性が際立ち、全970点の中から入選作品71点を決定しました。入選者は女性41名、男性30名、平均年齢は39.4歳でした。グランプリを受賞した仙石裕美さんの作

品は油彩とアクリルで描かれています。これまでのFACEでは、日本画、版画、コラージュ作品がグランプリを受賞していましたが、ペインターな油画作品が初めてグランプリを受賞しました。澄み渡る青空の下、歪んだ大地の上で縄跳びをする男女。素足で飛び上がる女性と伸びていく縄は朱一色で捉えノスタルジックとなり、大地は緑と黄、青などで多彩に現実的に描かれています。色彩の選択、そして大胆な構図が魅力的で秀逸であるとして選ばれました。

## 生誕140年 吉田博展 山と水の風景

**明** 治から昭和にかけて風景画の第一人者として活躍した吉田博(1876-1950)の生誕140年を記念する展覧会です。自然への真摯な眼差しと確かな技量で、水彩、油彩、木版へと媒体を展開させていった初期から晩年までの作品約250点を展示し、その画業と魅力に迫りました。

福岡県久留米市出身の吉田博は、17歳で上京し明治画壇の重鎮、小山正太郎の洋画塾不同舎に入門します。「絵の鬼」と呼ばれるほど鍛錬を積み、23歳で渡米し数々の作品展を開催、水彩画の技術と質の高さが絶賛されました。その後も欧米を中心に渡航を重ね、国内外の風景に取材した油彩画や木版画を発表、太平洋画会と

官展を舞台に活動を続けました。

20年振りの大回顧展となった本展では、次々と西洋から移入される新たなモダニズムの動向に流されず、一貫して堅実な写実で我が道を歩んだ吉田博の全貌が紹介され、多くの来館者を魅了しました。2016年4月に千葉市美術館をスタートし、郡山市立美術館、久留米市美術館、上田市立美術館、当館を巡回しました。

### 【展覧会データ】

展覧会名 | 生誕140年 吉田博展 山と水の風景  
 会 期 | 2017年7月8日(土)～8月27日(日)  
 主 催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 毎日新聞社  
 協 賛 | 損保ジャパン日本興亜、ニューカラー写真印刷  
 特別協力 | 福岡市美術館  
 協 力 | モンベル



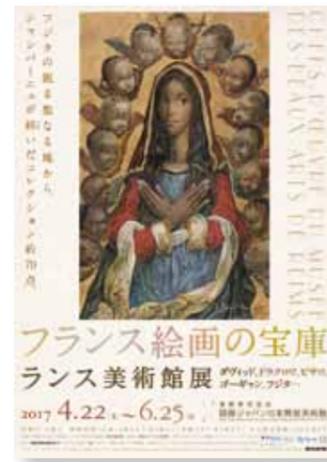
ポール・ゴーギャン《バラと影像》1889年 油彩・キャンバス  
 Reims, Musée des Beaux-Arts ©MBA Reims 2015/Christian Devleeschauwer.

## フランス絵画の宝庫 ランス美術館展

ダヴィッド、ドラクロワ、ピサロ、ゴーギャン、フジタ...

「**ラ**ンス美術館展」は、歴代のフランス国王が戴冠式を行ったノートル＝ダム大聖堂で知られる古都ランスより、フランス絵画の華麗な歴史を紹介した展覧会です。ランスはフランス北東部シャンパーニュ地方の中心都市。発泡ワインのシャンパーニュや織物の生産で栄えた都市です。ここに位置するランス美術館は初期ルネサンスから現代美術まで、絵画、彫刻、工芸など、様々な作品を所蔵し

ています。本展覧会ではこれらの所蔵作品から、バロック、ロココ、新古典派、ロマン派、印象派、ポスト印象派まで、68点の絵画作品を紹介しました。また、ランス大聖堂で洗礼を受けた日本出身の画家レオナルド・フジタ(藤田嗣治)の作品もまとめて紹介、フジタの発案でランスに建てられた「平和の聖母礼拝堂」のための素描も併せて展示しました。



### 【展覧会データ】

展覧会名 | ランス美術館展  
 会 期 | 2017年4月22日(土)～6月25日(日)  
 主 催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 東京新聞  
 協 賛 | 損保ジャパン日本興亜  
 後 援 | 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本  
 協 力 | エールフランス航空、G.H.マム  
 企画監修 | ランス美術館  
 企画協力 | プレントラスト

## 日本・デンマーク国交樹立150周年記念 デンマーク・デザイン

**本** 展は、デンマーク・デザイン博物館の学術協力のもとで開催された、日本で初めてのデンマーク・デザインに特化した展覧会です。近代から現代までの、家具・照明・食器・日用品等約200点を展示しました。

デンマークは、近年人気を集める北欧デザインの中でも、巨匠を輩出し続けるデザイン大国です。1950年代から60年代のデザイン史上の黄金期に、ハンス・ヴィーイナ(ウェグナー)、アーネ・ヤコプソン(アルネ・ヤコブセン)、フィン・ユール等のデザイナーたちが、多くの優品を創り出しました。それらのシンプルで美しいデザインは、現代までのデンマーク・デザインの特質をなしています。そこには、誰もが良質で快適な住まいを持つことを推奨してきた、福祉国家としての姿勢が伺えます。



吉田 博《興津の富士》1920年代 油彩・キャンバス、61.0×80.5cm、寄託

現場制作したか、同地を取材したスケッチに基づき描いた可能性から本油彩画の制作年が推測されます。なお、本作に見える海岸沿いには、現在、戦後開通した東名高速道路やバイパスの続く風景が広がっています。

**南** 莞爾氏(みなみ・かんじ、1881-1940)は東京火災(戦後・安田火災海上、現・損保ジャパン日本興亜)の社長を務めた人物で、1934年の副社長時代に印刷物のデザインを東郷青児に一任しました。本作品は安田火

災海上の『80年史』に「東京火災役職員有志から贈呈したもの」(224-5頁の図版解説)と記録されています。東郷と同社の縁を象徴すると同時に、あまり知られていない肖像画の作風を示す貴重な一枚です。

## 「東郷青児」「東郷たまみ」の著作権の管理を始めました。

**20** 17年4月から、当館が東郷青児と東郷たまみの著作権を管理しています。著作物

の複製を希望されるかたは、ホームページの「著作権について」に記載のお手続きによってお申し込みください。



ハンス・ヴィーイナ[ウェグナー] 椅子 JH550(ピーコックチェア) 1947年 ヨハネス・ハンズン、アッシュ・チーク・ペーパーコード、個人蔵  
 photo: Michael Whiteway

## 2017年度の鑑賞教育活動

**新** 宿区立小中学校を対象とした「対話による美術鑑賞教育」支援も10年目を迎え2017年度は小学校28校(全29校中)・中学校6校(全10校中)の授業を支援することができました。また、一般来館者を対象とした「対話による鑑賞会『ギャラリー★で★トーク・アート』」は展覧会ごとに1回、休館日の美術館を開放して開催。夏休みには特別企画として「ふぁみりー★で★とーく・あーと」を2回行い、小さなお子様にもご家族と一緒に楽しんでいただきました。

活動の柱であるガイドスタッフは、新たに8名が登録し総勢67名での活動となりました。ガイドスタッフのスキルアップを目的に、展覧会ごとの研修会を6回、勉強会を3回、分科会(テーマを絞った研究会)、外部講師による講演会を行いました。日々の活動を振り返りつつ、新たな知識を吸収し、充実した活動への支援となるように取り組んでいます。



## 新収蔵品紹介

**東** 海道五十三次の名所「興津(おきつ)」(静岡市)近辺から駿河湾越しに望む風光明媚な富士は、江戸時代以来、浮世絵や洋画の格好の題材でした。吉田博の作品には、本油彩画《興津の富士》と同様、興津から富士を眺めた構図の木版画《興津》(1928〔昭和3〕年)があります。同時期に、



東郷青児《南莞爾氏像》1940年 油彩・キャンバス、65.5×50.4cm、寄贈

《日本アルプス十二題 嶺山の朝》 1926(大正15)年 木版・紙、個人蔵